

第 I 部 調査結果の概要

1 平成 23 年の概況

～ 生産・在庫指数は、東日本大震災の影響を受けるも、前年からほぼ横ばいで推移 ～

- 鉱工業指数は、リーマン・ショック後の回復途上に東日本大震災の影響を受け、生産指数 90.5 は、前年比 (▲0.2%) と 2 年ぶりに前年を下回った。出荷指数 93.3 は、前年比 (▲3.1%) と 2 年ぶりに前年を下回った。在庫指数 115.0 は、前年比 (0.0%) と横ばいとなった。

～四半期別 (季節調整済指数) でみると～

- 生産指数は、平成 23 年Ⅱ期(4～6 月期) が東日本大震災の影響を受け、前期比で低下したが、Ⅲ期以降は、ほぼ横ばいで推移した。
- 出荷指数は、平成 23 年Ⅲ期を除いて前期を下回った。
- 在庫指数は、平成 23 年Ⅰ期(1～3 月期) が 88.1(前期比 ▲22.1%低下) と、現行基準で比較可能な平成 15 年以降で最大の低下率となった(在庫指数が 90.0 を下回るのは現行基準で初めて)。

(1) 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数は、90.5(前年比 ▲0.2%低下)。2 年ぶりに前年を下回った(図 1)。

業種別にみると、一般機械工業、非鉄金属工業、食料品・たばこ工業など 11 業種が上昇し、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、鉄鋼業など 8 業種が低下した(図 2)。

(2) 鉱工業出荷指数

鉱工業出荷指数は、93.3(前年比 ▲3.1%低下)。2 年ぶりに前年を下回った(図 1)。

業種別にみると、一般機械工業、精密機械工業、食料品・たばこ工業など 12 業種が上昇し、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、電気・情報通信機械工業など 7 業種が低下した。

(3) 鉱工業在庫指数 (末)

鉱工業在庫指数(期末在庫)は、115.0(前年比 0.0%横ばい)(図 1)。

業種別にみると、化学工業、繊維工業、金属製品工業など 8 業種が上昇し、輸送機械工業、ゴム製品工業、鉄鋼業など 10 業種が低下した。

図 1 鉱工業指数の推移 (年は原指数, 四半期は季節調整済指数)

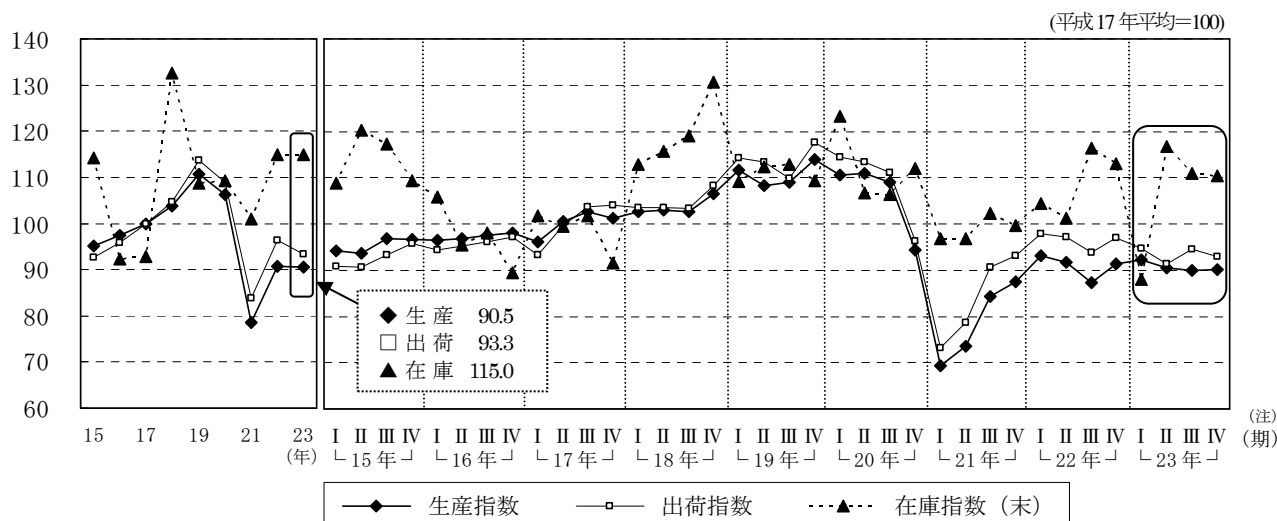
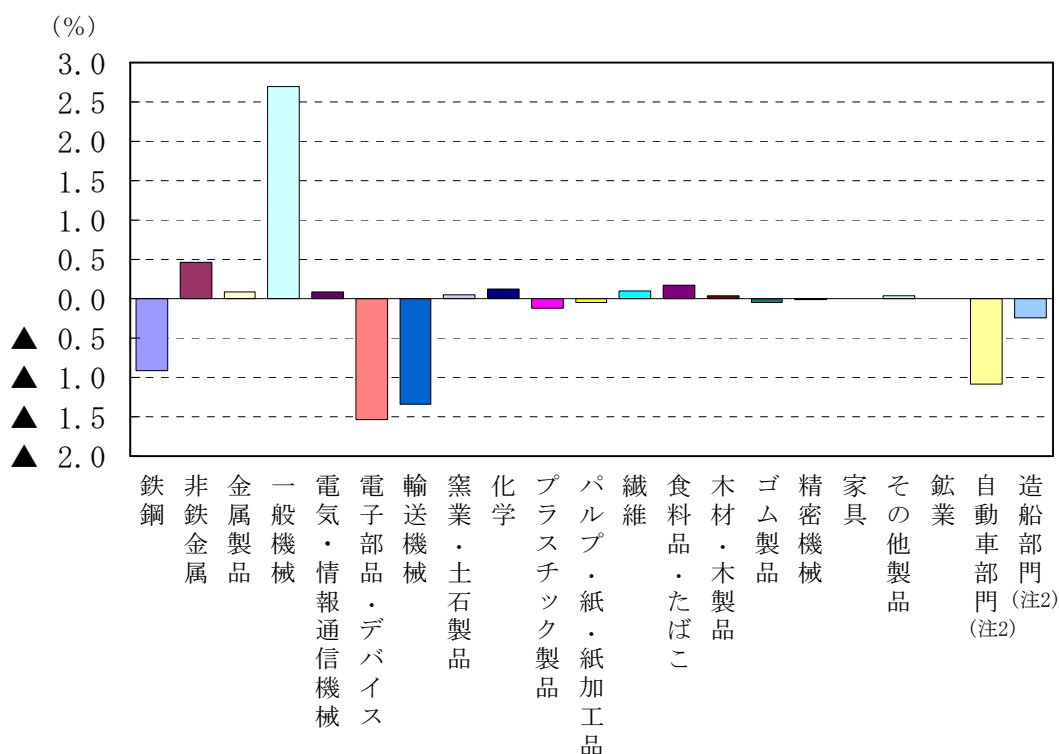


図2 平成23年における鉱工業生産指数の前年比に対する業種別寄与度^(注1)



(注1) 寄与度とは、鉱工業指数全体の上昇・低下に対し、各業種の上昇・低下が、どの程度影響を与えているかを示したものである。

(注2) 自動車部門及び造船部門については、輸送機械を分けたものである。

2 生産の業種別動向（寄与度順）

(1) 前年比が上昇した主な業種

上昇した主な業種	前年比	寄与度	上昇した主な品目
一般機械工業	25.2%	2.7%	ボイラの部品, ショベル系掘削機, 歯車
非鉄金属工業	12.5%	0.5%	アルミニウム加工材, アルミニウム鋳物, 銅・銅合金鋳物
食料品・たばこ工業	3.3%	0.2%	乳飲料, 清涼し好飲料, 瓶詰・缶詰

(2) 前年比が低下した主な業種

低下した主な業種	前年比	寄与度	低下した主な品目
電子部品・デバイス工業	▲18.2%	▲1.5%	モス型半導体集積回路(CCD), モス型半導体集積回路(ロジック), 液晶用カラーフィルター
輸送機械工業	▲7.1%	▲1.3%	ガソリンエンジン, ディーゼルエンジン, シャシー及び車体部品
鉄鋼業	▲3.5%	▲0.9%	鋼帯, 鋼半製品, 粗鋼

3 関連業種別生産指数の推移

機械関連業種、素材関連業種2年ぶりの低下、生活関連業種は6年ぶりの上昇

業種別の生産指数を、機械関連業種、素材関連業種、生活関連業種の3関連業種に分けて分析すると^(注)、平成23年は、機械関連業種、素材関連業種で2年ぶりの低下、生活関連業種は、6年ぶりの上昇となった。機械関連業種及び素材関連業種では、前年、リーマン・ショックの反動要因で大幅な上昇を見せたが、平成23年3月に起こった東日本大震災の影響もあり、ほぼ横ばいで推移している(図3、4)。

図3 鉱工業生産指数の前年比の推移

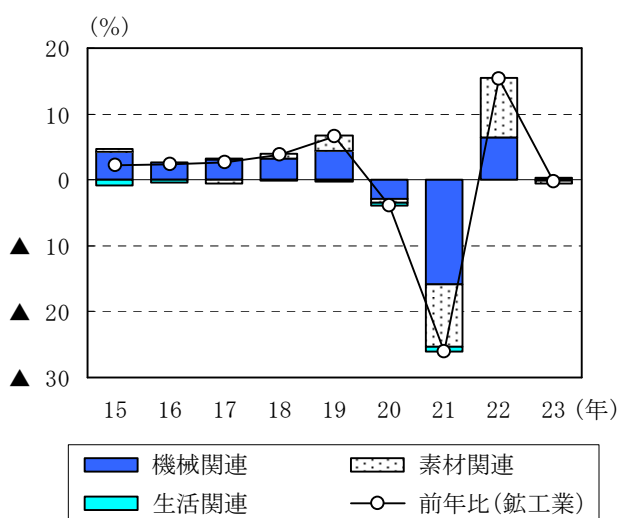
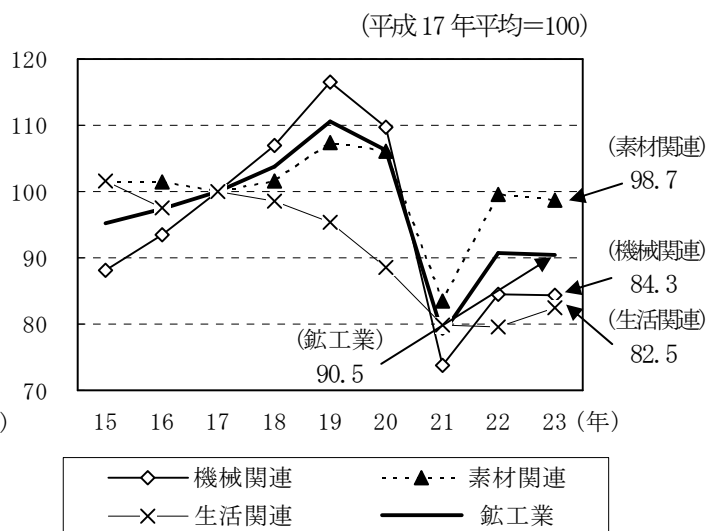


図4 関連業種別生産指数の推移



(注) 各関連業種の分類は、次のとおりとした。

機械関連業種：一般機械工業、電気・情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、精密機械工業の5業種

素材関連業種：鉄鋼業、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、化学工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、木材・木製品工業、ゴム製品工業の9業種

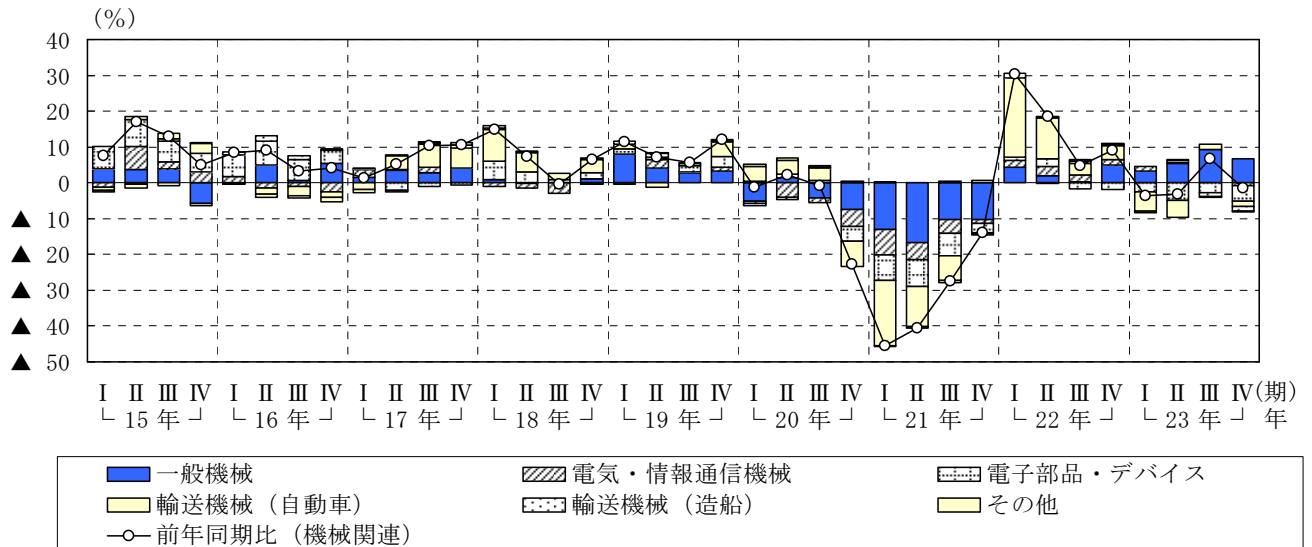
生活関連業種：繊維工業、食料品・たばこ工業、家具工業、その他製品工業の4業種

(1) 機械関連業種の生産指数の推移

機械関連業種の生産指数は、ほぼマイナスで推移

機械関連業種の生産指数は、一般機械工業などがプラスで推移したものの、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業(自動車)などが低下に寄与し、平成23年I~II期は前年同期を下回り、III期(前年同期比6.7%上昇)はプラスに転じたものの、IV期で再びマイナスで転じた(図5)。

図5 生産指数（機械関連業種）の前年同期比の推移



① 一般機械工業

一般機械工業の生産指数は、81.4(前年比25.2%上昇)。印刷機械などが低下したものの、ボイラの部品、ショベル系掘削機などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期から平成23年IV期まで、8期連続で前年同期を上回り、平成23年III期(前年同期比36.6%上昇)は、現行基準で比較可能な平成15年以降で最大、IV期(前年同期比27.8%)は2番目に高い上昇率となった。

② 電気・情報通信機械工業

電気・情報通信機械工業は、59.0(前年比1.7%上昇)。自動車用電気照明器具、携帯電話が低下したものの、低圧遮断器、電気溶接機などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期から平成23年II期まで、6期連続で前年同期を上回ったものの、III期以降はマイナスに転じた。

③ 電子部品・デバイス工業

電子部品・デバイス工業は、68.1(前年比▲18.2%低下)。モス型半導体集積回路(マイコン)などが上昇したものの、モス型半導体集積回路(CCD)、モス型半導体集積回路(ロジック)などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年III期から平成23年IV期まで、6期連続で前年同期を下回った。

④ 輸送機械工業(自動車部門)

輸送機械工業(自動車部門)は、105.7(前年比▲7.0%低下)。普通自動車が増加したものの、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年I～II期は前年同期を下回り、III期(前年同期比4.3%上昇)はプラスに転じたものの、IV期で再びマイナスに転じた。

⑤ 輸送機械工業(造船部門)

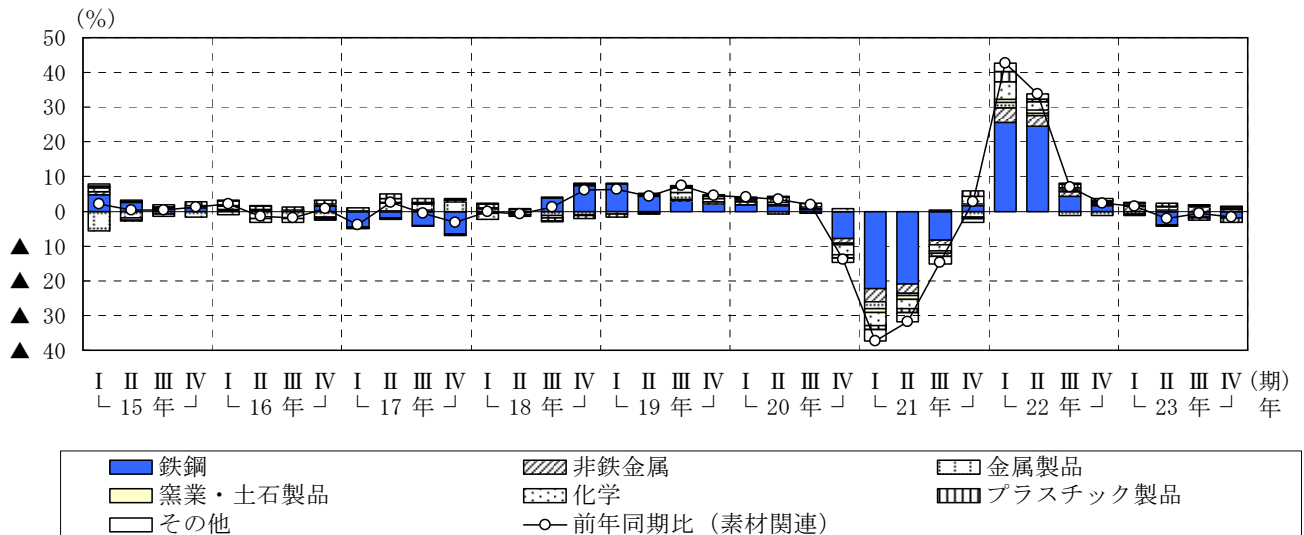
輸送機械工業(造船部門)は、113.0(前年比 ▲7.3%低下)。船用蒸気タービンなどが上昇したものの、鋼船修理、鋼船新造などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅱ期は前年同期を上回ったが、それ以外は前年同期を下回っている。平成23年Ⅳ期(前年同期比 ▲16.7%低下)は、現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率、Ⅲ期(前年同期比 ▲14.9%)は2番目に大きい下落率となった。

(2) 素材関連業種の生産指数の推移

素材関連業種の生産指数は、平成23年4~6月期以降はマイナスで推移

素材関連業種の生産指数は、非鉄金属工業、化学工業などがプラスで推移したものの、鉄鋼業が低下に寄与し、平成23年Ⅰ期(前年同期比 1.5%上昇)は前年同期を上回ったが、Ⅱ期以降は3期連続で前年同期を下回った(図6)。

図6 生産指数(素材関連業種)の前年同期比の推移



① 鉄鋼業

鉄鋼業の生産指数は、101.3(前年比 ▲3.5%低下)。特殊鋼冷間仕上鋼材などが上昇したものの、鋼帯、鋼半製品などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅰ期は6期ぶりにマイナスに転じ、Ⅳ期まで4期連続で前年同期を下回った。

② 金属製品工業

金属製品工業は、81.7(前年比 2.1%上昇)。水門などが低下したものの、橋りょう、食缶などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅱ期は4期ぶりにプラスに転じ、その後3期連続で前年同期を上回った。

③ 化学工業

化学工業は、98.5(前年比 2.9%上昇)。酸素などが低下したものの、触媒、メタクリル酸エステル・モノマーなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅰ~Ⅱ期はプラスで推移し、Ⅲ期は3期ぶりにマイナスに転じ、Ⅳ期には再びプラスに転じた。

④ プラスチック製品工業

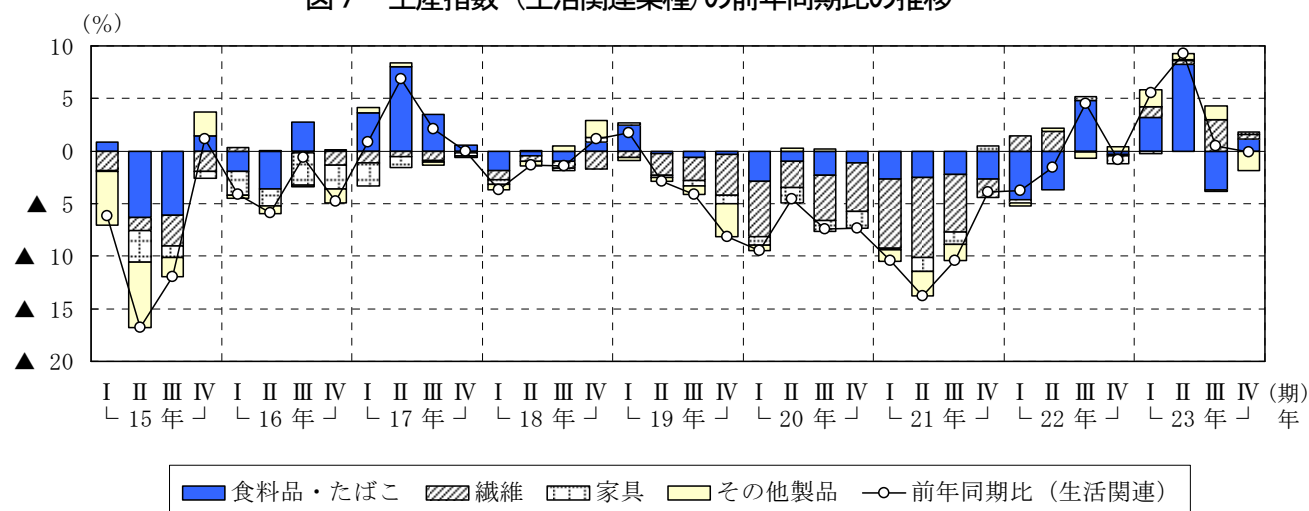
プラスチック製品工業は、106.8(前年比 ▲2.1%低下)。シートなどが上昇したものの、強化製品、浴槽などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成21年Ⅲ期から平成23年Ⅱ期まで8期連続で前年同期を上回ったが、Ⅲ期にマイナスに転じ、Ⅳ期まで2期連続で前年同期を下回った。

(3) 生活関連業種の生産指数の推移

生活関連業種の平成23年4~6月期の生産指数は、現行基準で最大の上昇率

生活関連業種の生産指数は、平成23年Ⅰ期以降、3期連続で前年同期を上回り、Ⅱ期(前年同期比9.3%上昇)は、現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の上昇率となった。しかし、Ⅳ期は平成22年Ⅳ期以来、4期ぶりにマイナスに転じた(図7)。

図7 生産指数(生活関連業種)の前年同期比の推移



① 食料品・たばこ工業

食料品・たばこ工業の生産指数は、94.1(前年比3.3%上昇)。飲用牛乳などが低下したものの、乳飲料、清涼嗜好飲料などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅱ期(前年同期比12.7%上昇)は、現行基準で比較可能な平成15年以降で2番目の上昇率となった。Ⅲ期は平成22年Ⅳ期以来3期ぶりに前年同期を下回ったものの、Ⅳ期は再びプラスに転じた。

② 繊維工業

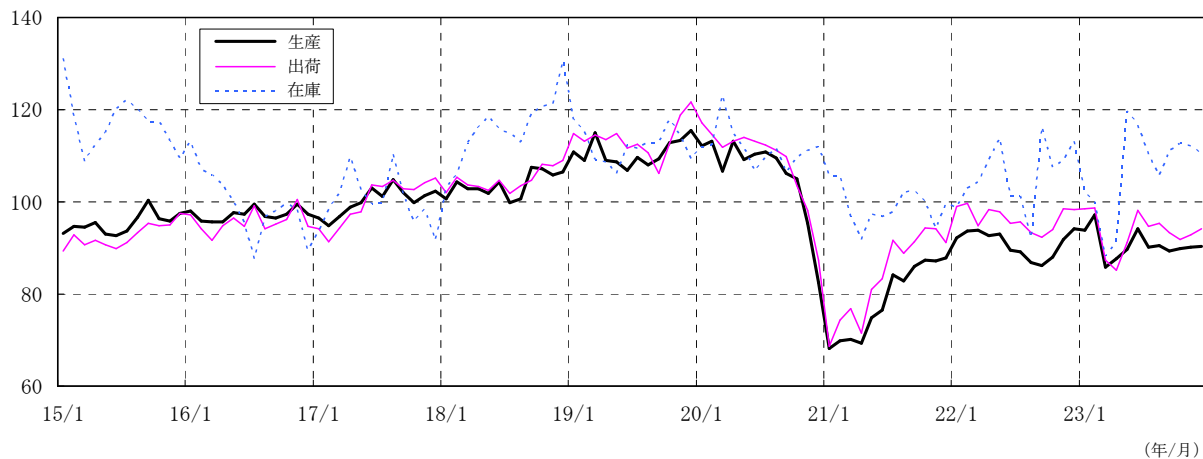
繊維工業は、59.0(前年比6.9%上昇)。ビスコーススフ糸などが低下したものの、化学合成繊維、綿織物などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅰ期~Ⅳ期まで、4期連続で前年同期を上回った。平成23年Ⅲ期(前年同期比18.0%上昇)は、現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の上昇率となった。

③ その他製品工業

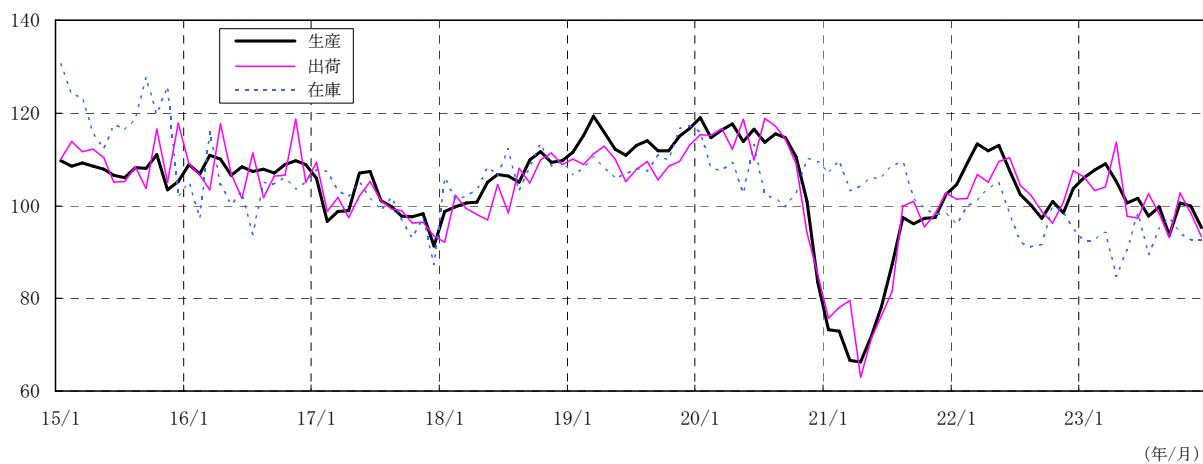
その他製品工業は、82.4(前年比4.2%上昇)。ボールペンなどが低下したものの、運動競技用品、手縫針などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成23年Ⅰ期~Ⅲ期は前年同期を上回ったが、Ⅳ期は平成22年Ⅲ期以来、5期ぶりに前年同期を下回った。

4 主要業種別季節調整済指数の推移(平成17年平均=100)

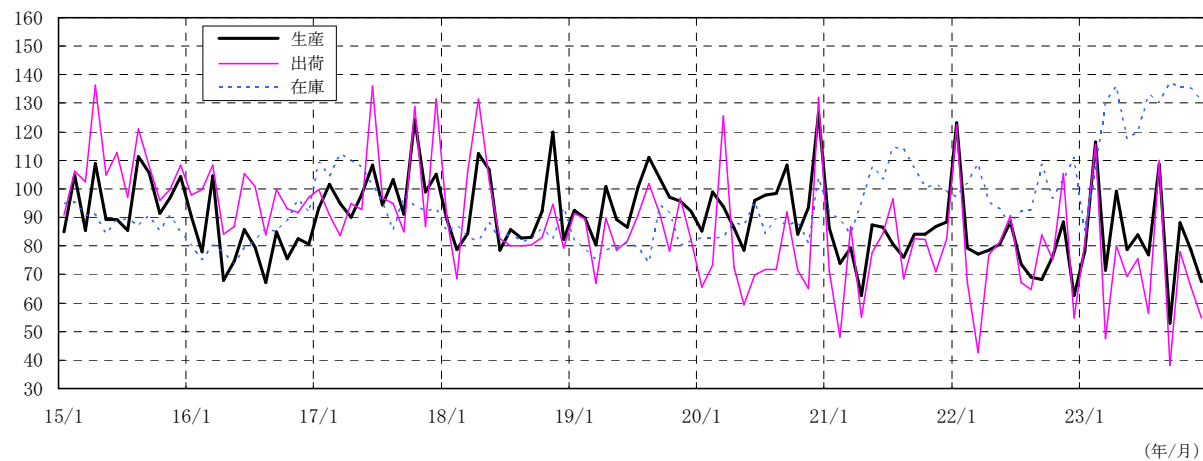
鋳工業 (付加価値額ウエイト=10000.0)



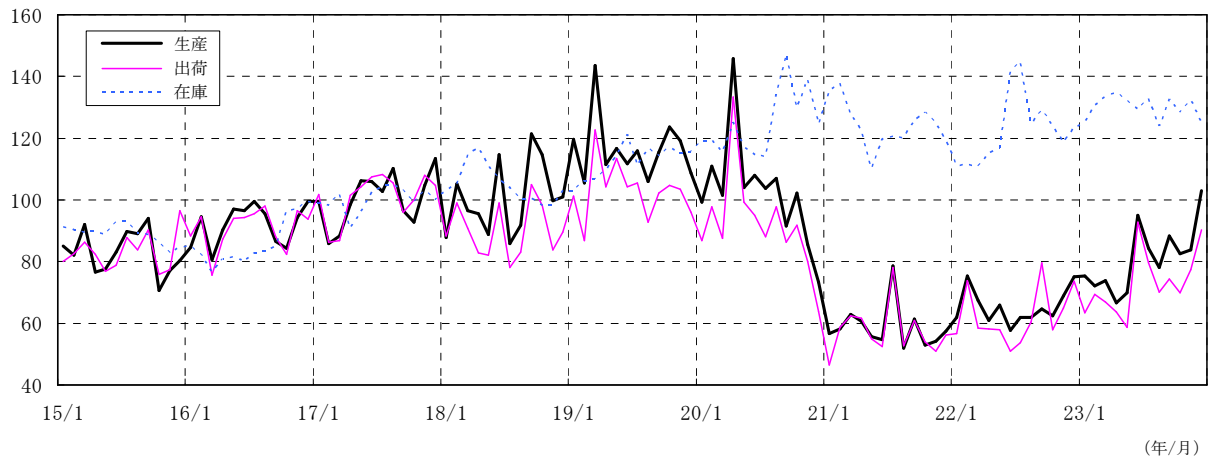
鉄鋼業 (付加価値額ウエイト=2230.6)



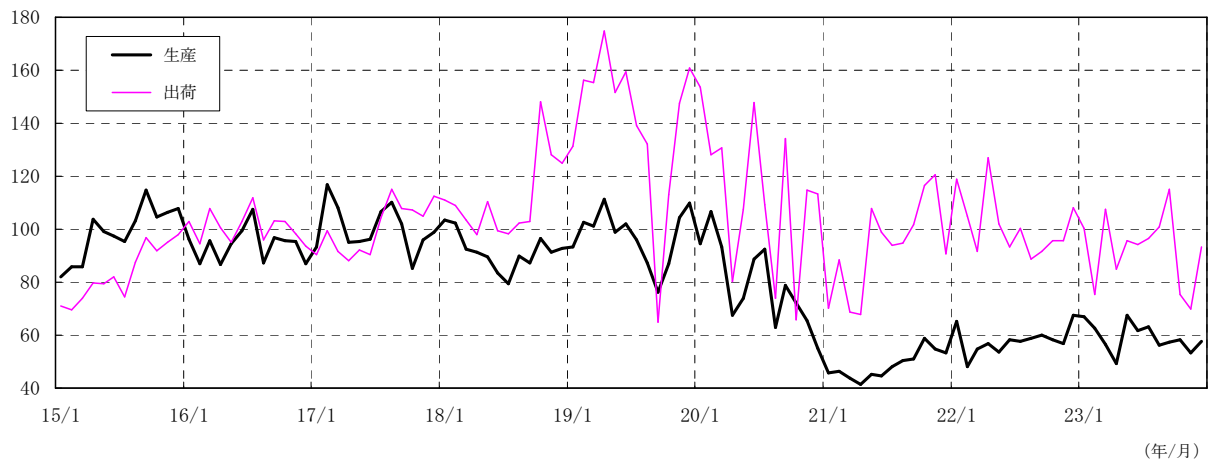
金属製品工業 (付加価値額ウエイト=475.0)



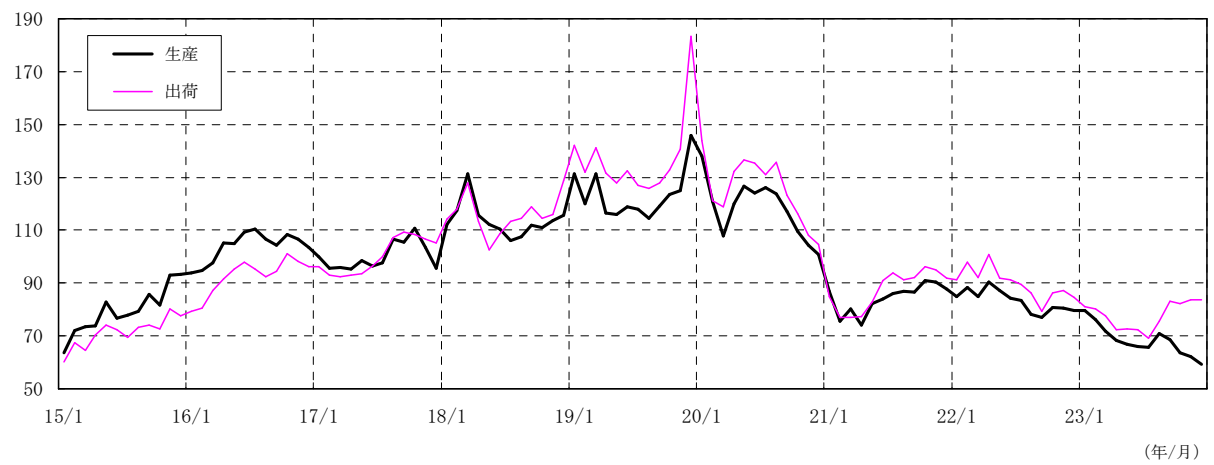
一般機械工業（付加価値額ウェイト=1489.5）



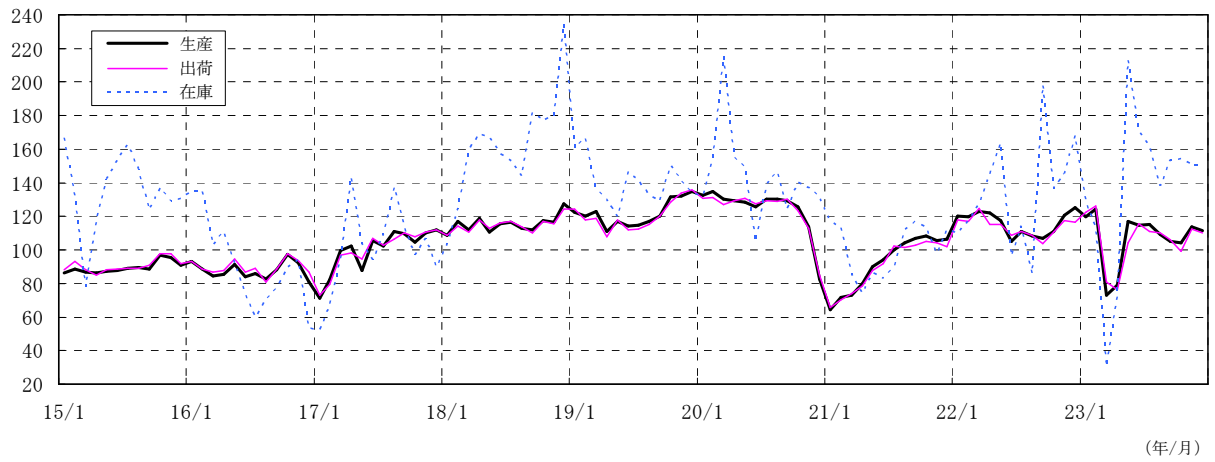
電気・情報通信機械工業（付加価値額ウェイト=721.2）



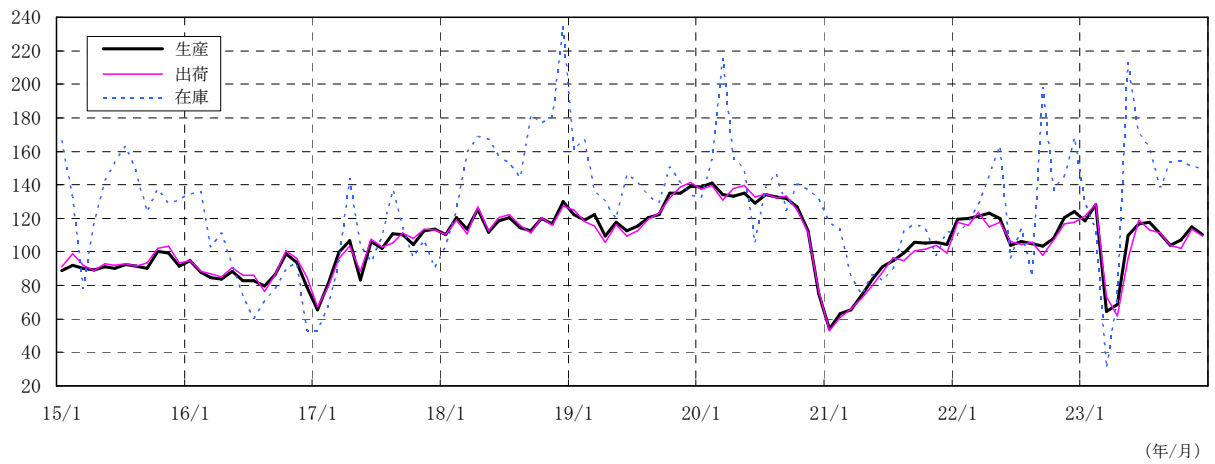
電子部品・デバイス工業（付加価値額ウェイト=917.7）



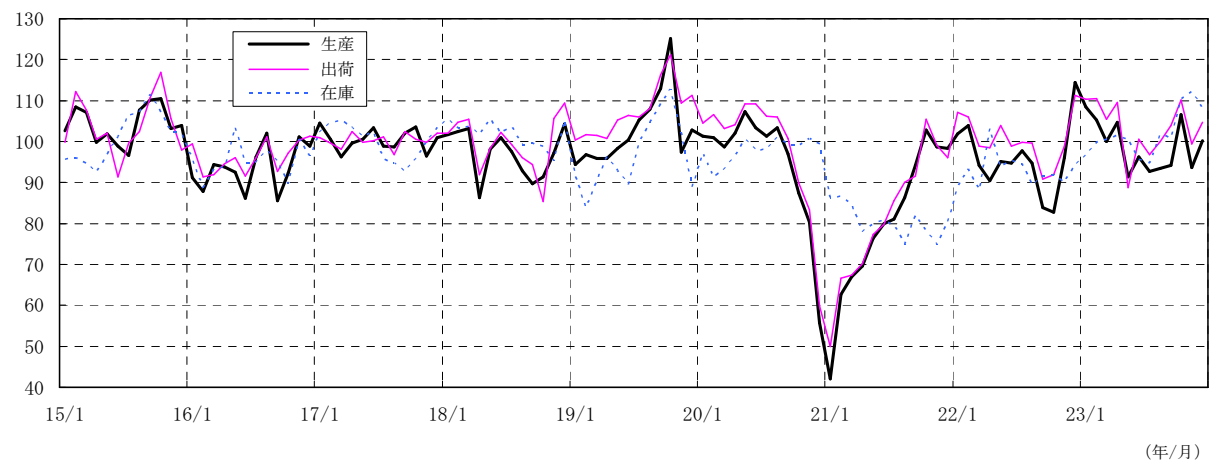
輸送機械工業（付加価値額ウェイト=1485.3）



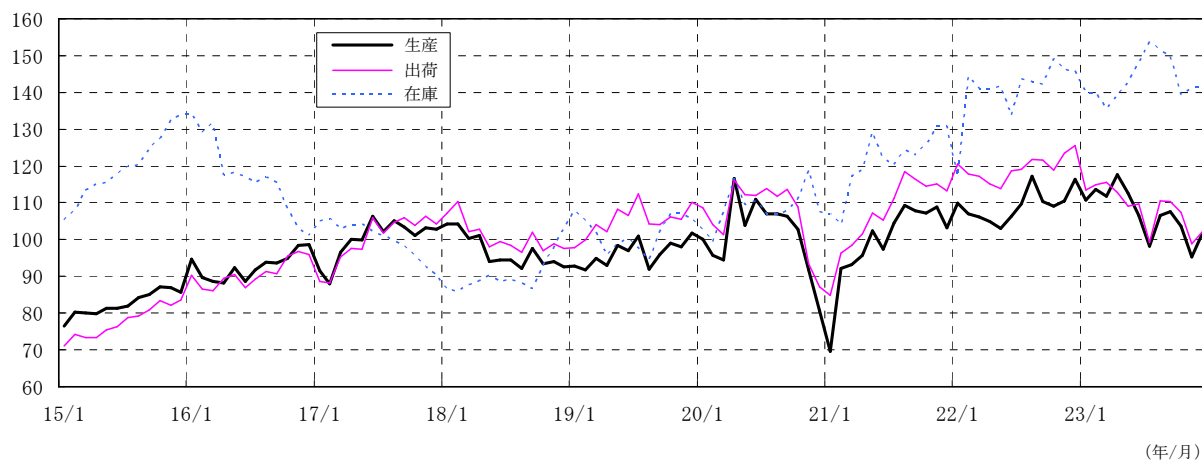
自動車部門（付加価値額ウェイト=1231.2）



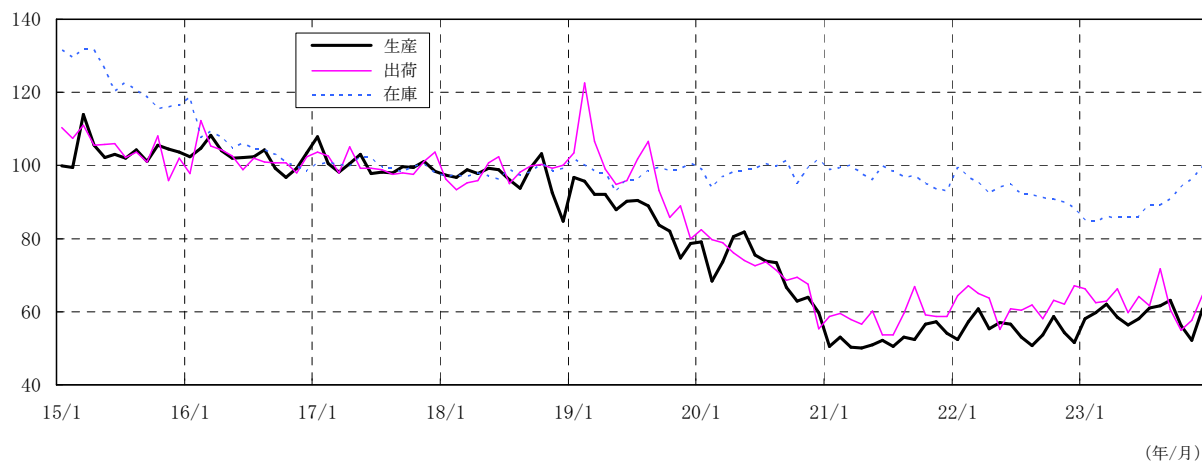
化学工業（付加価値額ウェイト=408.5）



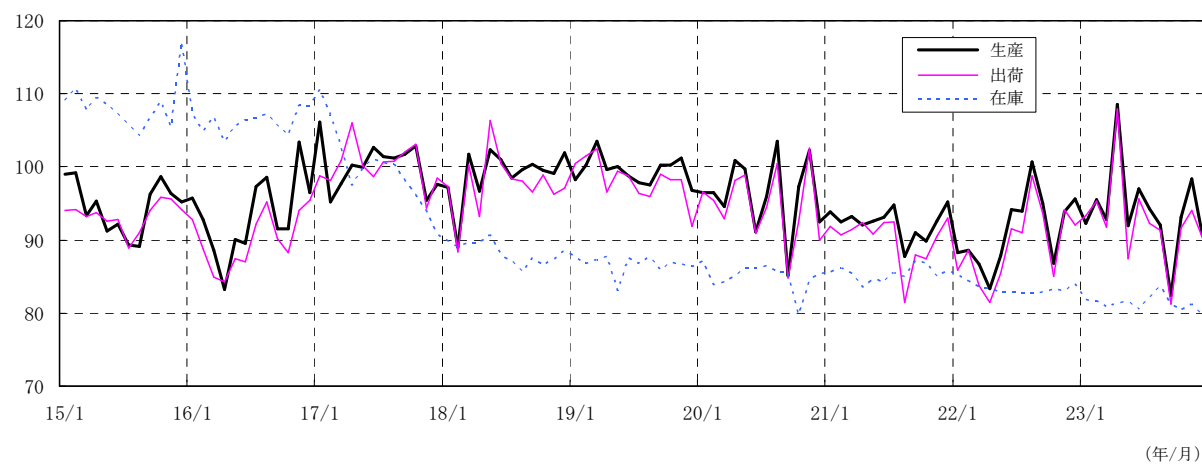
プラスチック製品工業（付加価値額ウェイト=474.8）



繊維工業（付加価値額ウェイト=220.4）



食料品・たばこ工業（付加価値額ウェイト=500.0）



5 広島県、中国地方及び全国における鋳工業生産指数の推移

平成23年を四半期ごとにみると(図8)、広島県では平成23年Ⅲ期を除いて、それぞれ前年同期を下回った。中国地方では平成23年Ⅰ期は前年同期を上回ったが、Ⅱ期以降は前年同期を下回った。全国では各期とも前年同期を下回った。

図8-1 広島県の鋳工業生産指数の前年同期比の推移

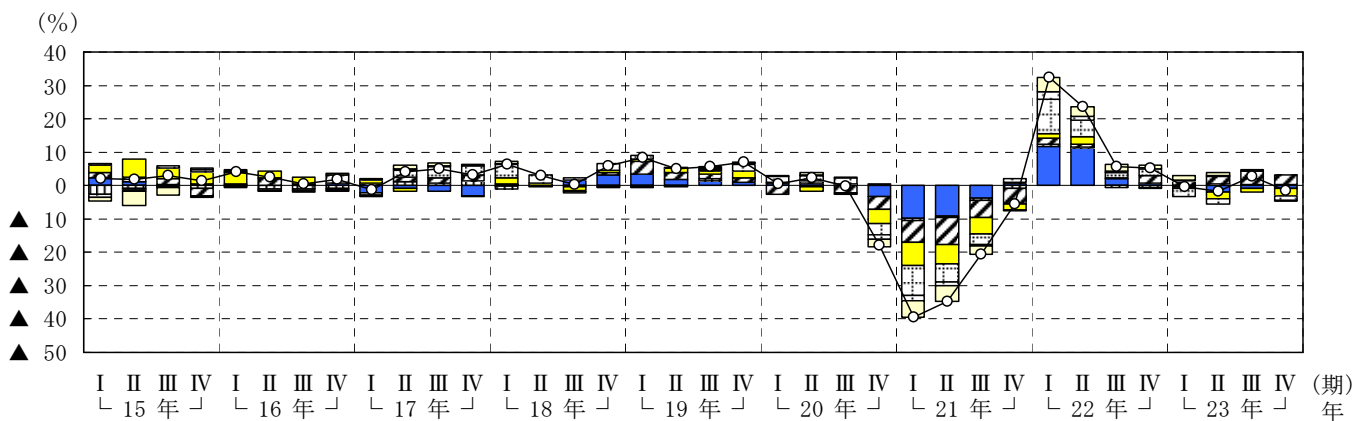


図8-2 中国地方の鋳工業生産指数の前年同期比の推移

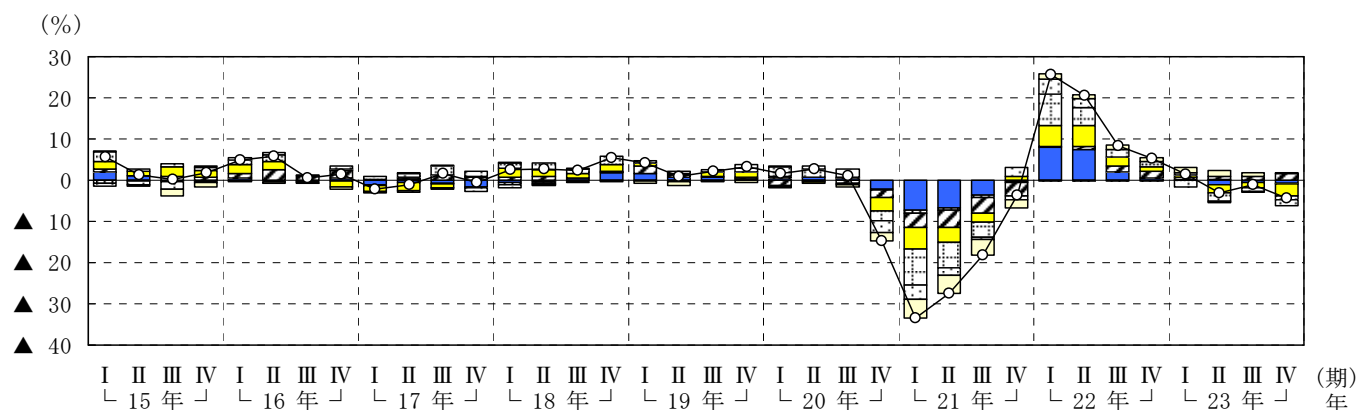
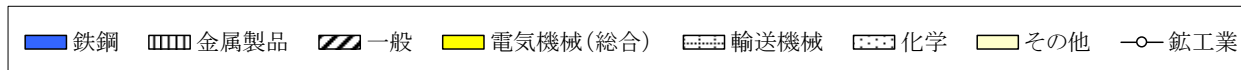
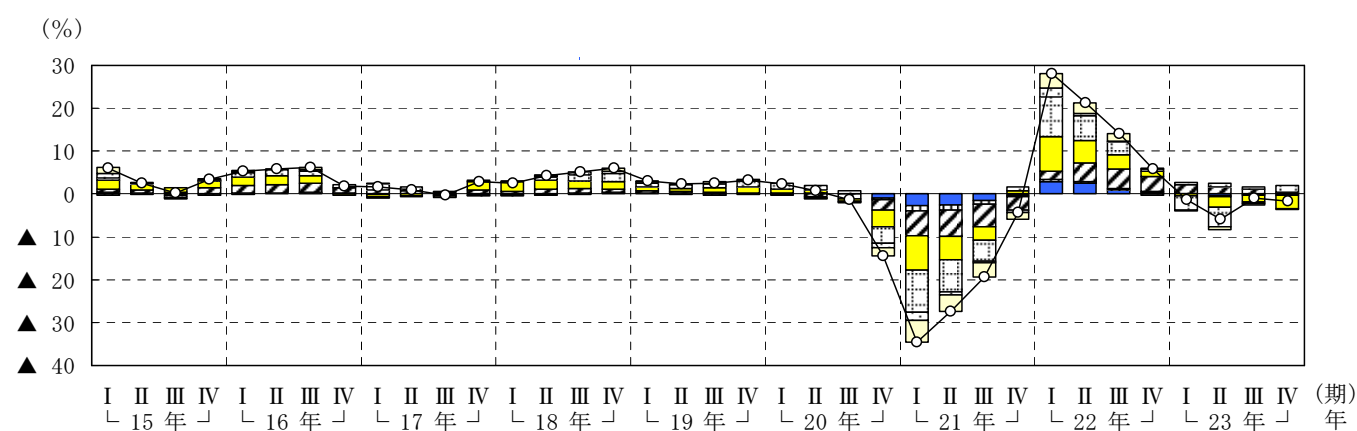


図8-3 全国の鋳工業生産指数の前年同期比の推移



出所：中国地方…「中国地域鋳工業生産動向」(経済産業省中国経済産業局) 全国…「鋳工業生産・出荷・在庫指数」(経済産業省)

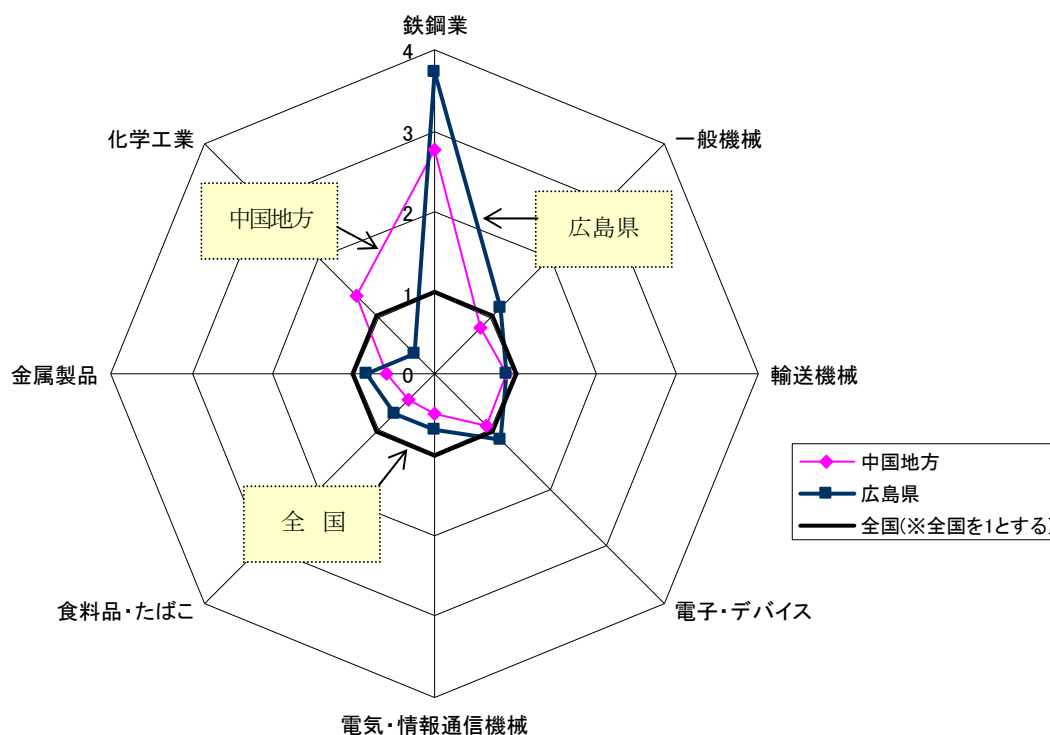
平成23年の鉱工業生産指数は、3月に東日本大震災の影響を受けたものの、前年並みには回復した。

参考 鉱工業生産指数の付加価値額ウェイト(平成17年基準)について

特化係数^(注)を用いて、広島県の産業構造が、全国や中国地方と比較してどの程度の偏りがあるかみてみると(図9)、全国との比較では、鉄鋼業への特化の度合いが、極めて大きい一方、化学工業への特化の度合いが小さい。中国地方との比較では、鉄鋼業と化学工業を除いて各業種の特化の度合いは、相対的に全国に近くなっている。

図9 主要業種における広島県及び中国地方の特化係数

(各特化係数は、平成17年基準の付加価値額ウェイトにより算出)



(注)特化係数 = 各地域の構成比 ÷ 全国の構成比

特化係数が1を超えると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に高いことを表し、特化係数が1を下回ると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に低いことを表す。

別表 広島県、中国地方及び全国の鉱工業生産指数

(平成17年平均=100)

年・期・月	広島県				中国地方				全国			
	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比
平成 17年	/		100.0	2.7	/		100.0	▲ 0.5	/		100.0	1.3
18年			103.8	3.8			103.3	3.3			104.5	4.5
19年			110.6	6.6			106.0	2.6			107.4	2.8
20年			106.3	▲ 3.9			103.4	▲ 2.5			103.8	▲ 3.4
21年			78.6	▲ 26.1			81.3	▲ 21.4			81.1	▲ 21.9
22年			90.7	15.4			93.0	14.3			94.4	16.4
23年			90.5	▲ 0.2			91.4	▲ 1.7			92.2	▲ 2.3
平成 17年 I 期		96.1	▲ 2.0	97.8		▲ 1.2	99.4	▲ 1.4		100.1	▲ 2.1	99.8
II 期	100.6	4.7	99.4	4.2	100.6	1.2	98.3	▲ 1.0	100.1	0.3	97.8	1.0
III 期	102.6	2.0	103.7	4.9	100.6	0.0	101.0	1.6	99.7	▲ 0.4	99.1	▲ 0.2
IV 期	101.2	▲ 1.4	99.1	3.1	100.4	▲ 0.2	100.6	▲ 0.5	100.9	1.2	102.4	2.8
18年 I 期	102.6	1.4	104.0	6.3	101.5	1.1	102.7	2.6	102.1	1.2	103.3	2.6
II 期	103.0	0.4	102.3	2.9	103.1	1.6	101.1	2.8	103.9	1.8	101.9	4.2
III 期	102.7	▲ 0.3	104.0	0.3	102.9	▲ 0.2	103.3	2.3	105.0	1.1	104.2	5.1
IV 期	106.5	3.7	104.9	5.9	105.2	2.2	106.0	5.4	106.3	1.2	108.5	6.0
19年 I 期	111.6	4.8	112.7	8.4	106.0	0.8	106.9	4.1	105.8	▲ 0.5	106.5	3.1
II 期	108.2	▲ 3.0	107.4	5.0	104.1	▲ 1.8	102.0	0.9	106.4	0.6	104.2	2.3
III 期	109.0	0.7	109.8	5.6	105.8	1.6	105.6	2.2	108.2	1.7	106.9	2.6
IV 期	113.9	4.5	112.4	7.1	108.2	2.3	109.4	3.2	109.2	0.9	112.1	3.3
20年 I 期	110.6	▲ 2.9	113.2	0.4	107.4	▲ 0.7	108.6	1.6	109.5	0.3	109.1	2.4
II 期	110.9	0.3	109.8	2.2	107.3	▲ 0.1	104.8	2.7	108.1	▲ 1.3	105.0	0.8
III 期	108.9	▲ 1.8	109.7	▲ 0.1	105.3	▲ 1.9	106.8	1.1	104.6	▲ 3.2	105.4	▲ 1.4
IV 期	94.3	▲ 13.4	92.3	▲ 17.9	92.9	▲ 11.8	93.3	▲ 14.7	92.8	▲ 11.3	95.8	▲ 14.5
21年 I 期	69.4	▲ 26.4	68.5	▲ 39.5	75.2	▲ 19.1	72.3	▲ 33.4	74.2	▲ 20.0	71.4	▲ 34.6
II 期	73.5	5.9	71.7	▲ 34.7	79.3	5.5	76.1	▲ 27.4	79.0	6.5	76.2	▲ 27.4
III 期	84.3	14.7	87.0	▲ 20.7	84.3	6.3	87.4	▲ 18.2	83.2	5.3	84.9	▲ 19.4
IV 期	87.5	3.8	87.1	▲ 5.6	87.3	3.6	89.9	▲ 3.6	88.1	5.9	91.7	▲ 4.3
22年 I 期	93.2	6.5	90.7	32.4	93.9	7.6	90.9	25.7	94.6	7.4	91.4	28.0
II 期	91.7	▲ 1.6	88.6	23.6	94.6	0.7	91.8	20.6	95.3	0.7	92.4	21.3
III 期	87.4	▲ 4.7	92.0	5.7	91.2	▲ 3.6	94.7	8.4	94.3	▲ 1.0	96.8	14.0
IV 期	91.3	4.5	91.5	5.1	93.1	2.1	94.7	5.3	94.2	▲ 0.1	97.1	5.9
23年 I 期	92.2	1.0	90.3	▲ 0.4	94.8	1.8	92.3	1.5	92.8	▲ 1.5	90.2	▲ 1.3
II 期	90.4	▲ 2.0	87.1	▲ 1.7	91.4	▲ 3.6	89.0	▲ 3.1	88.9	▲ 4.2	87.0	▲ 5.8
III 期	90.0	▲ 0.4	94.5	2.7	90.8	▲ 0.7	93.7	▲ 1.1	93.7	5.4	95.9	▲ 0.9
IV 期	90.1	0.1	90.1	▲ 1.5	89.4	▲ 1.5	90.5	▲ 4.4	94.1	0.4	95.5	▲ 1.6
平成 17年 1月	96.5	▲ 0.8	91.5	▲ 0.4	100.2	▲ 1.6	96.1	0.2	99.8	2.3	92.3	2.0
2月	94.9	▲ 1.7	90.1	▲ 4.3	98.7	▲ 1.5	94.9	▲ 3.9	99.7	▲ 0.1	97.5	2.0
3月	96.8	2.0	111.8	0.8	99.3	0.6	109.4	▲ 2.2	100.0	0.3	112.4	1.4
4月	98.9	2.2	95.4	2.7	100.7	1.4	98.1	▲ 1.2	100.5	0.5	97.5	0.4
5月	99.9	1.0	95.9	2.8	99.7	▲ 1.0	94.6	▲ 2.1	99.8	▲ 0.7	92.8	1.9
6月	103.0	3.1	106.8	6.7	101.4	1.7	102.1	0.0	100.1	0.3	103.1	1.0
7月	101.1	▲ 1.8	103.6	1.0	98.8	▲ 2.6	100.4	▲ 2.9	99.3	▲ 0.8	99.7	▲ 2.5
8月	104.8	3.7	101.6	8.2	102.3	3.5	99.2	3.0	99.4	0.1	93.0	1.4
9月	102.0	▲ 2.7	106.0	5.7	100.7	▲ 1.6	103.3	4.8	100.3	0.9	104.6	0.7
10月	99.9	▲ 2.1	96.7	3.0	100.6	▲ 0.1	99.2	1.8	99.8	▲ 0.5	100.2	1.9
11月	101.3	1.4	99.0	1.7	99.5	▲ 1.1	99.2	▲ 2.2	101.4	1.6	104.3	2.9
12月	102.4	1.1	101.7	4.8	101.0	1.5	103.5	▲ 1.1	101.6	0.2	102.6	3.5
18年 1月	100.6	▲ 1.8	94.9	3.7	100.0	▲ 1.0	95.8	▲ 0.3	102.0	0.4	94.3	2.2
2月	104.4	3.8	100.3	11.3	102.4	2.4	99.7	5.1	101.9	▲ 0.1	100.7	3.3
3月	102.9	▲ 1.4	116.9	4.6	102.1	▲ 0.3	112.7	3.0	102.5	0.6	115.0	2.3
4月	102.8	▲ 0.1	100.0	4.8	102.9	0.8	100.7	2.7	104.5	2.0	101.4	4.0
5月	101.9	▲ 0.9	98.1	2.3	102.3	▲ 0.6	97.5	3.1	103.0	▲ 1.4	96.7	4.2

(平成17年平均=100)

年 月	広 島 県				中 国 地 方				全 国			
	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比
平成 18年 6月	104.3	2.4	108.7	1.8	104.2	1.9	105.1	2.9	104.3	1.3	107.5	4.3
7月	99.9	▲ 4.2	102.2	▲ 1.4	103.3	▲ 0.9	104.8	4.4	104.7	0.4	104.8	5.1
8月	100.7	0.8	97.2	▲ 4.3	101.4	▲ 1.8	98.2	▲ 1.0	105.1	0.4	98.4	5.8
9月	107.5	6.8	112.6	6.2	104.0	2.6	106.9	3.5	105.1	0.0	109.4	4.6
10月	107.2	▲ 0.3	104.4	8.0	105.4	1.3	104.7	5.5	105.9	0.8	107.7	7.5
11月	105.9	▲ 1.2	103.5	4.5	105.3	▲ 0.1	104.9	5.7	106.3	0.4	109.6	5.1
12月	106.5	0.6	106.9	5.1	105.0	▲ 0.3	108.4	4.7	106.6	0.3	108.1	5.4
19年 1月	110.8	4.0	105.1	10.7	106.2	1.1	102.6	7.1	105.4	▲ 1.1	98.5	4.5
2月	109.0	▲ 1.6	103.2	2.9	105.0	▲ 1.1	101.1	1.4	106.0	0.6	103.6	2.9
3月	115.0	5.5	129.9	11.1	106.8	1.7	117.1	3.9	106.0	0.0	117.3	2.0
4月	109.0	▲ 5.2	105.0	5.0	103.7	▲ 2.9	101.0	0.3	105.6	▲ 0.4	102.4	1.0
5月	108.7	▲ 0.3	106.1	8.2	104.4	0.7	100.5	3.1	106.8	1.1	101.3	4.8
6月	106.9	▲ 1.7	111.2	2.3	104.3	▲ 0.1	104.4	▲ 0.7	106.9	0.1	108.9	1.3
7月	109.7	2.6	112.7	10.3	105.5	1.2	107.7	2.8	107.0	0.1	108.1	3.1
8月	108.0	▲ 1.5	104.1	7.1	105.3	▲ 0.2	101.9	3.8	109.7	2.5	102.9	4.6
9月	109.4	1.3	112.6	0.0	106.5	1.1	107.1	0.2	107.9	▲ 1.6	109.6	0.2
10月	112.9	3.2	110.6	5.9	106.9	0.4	107.0	2.2	110.0	1.9	113.4	5.3
11月	113.3	0.4	112.1	8.3	108.4	1.4	109.5	4.4	108.4	▲ 1.5	113.1	3.2
12月	115.5	1.9	114.4	7.0	109.4	0.9	111.8	3.1	109.1	0.6	109.7	1.5
20年 1月	112.1	▲ 2.9	106.9	1.7	108.6	▲ 0.7	103.9	1.3	109.6	0.5	101.6	3.1
2月	113.1	0.9	112.7	9.2	108.8	0.2	108.7	7.5	110.1	0.5	109.1	5.3
3月	106.6	▲ 5.7	120.1	▲ 7.5	104.9	▲ 3.6	113.2	▲ 3.3	108.7	▲ 1.3	116.5	▲ 0.7
4月	113.2	6.2	110.9	5.6	107.7	2.7	104.4	3.4	108.0	▲ 0.6	104.2	1.8
5月	109.1	▲ 3.6	104.7	▲ 1.3	107.2	▲ 0.5	102.5	2.0	109.3	1.2	102.2	0.9
6月	110.3	1.1	113.9	2.4	106.9	▲ 0.3	107.5	3.0	107.1	▲ 2.0	108.7	▲ 0.2
7月	110.9	0.5	114.1	1.2	106.1	▲ 0.7	110.4	2.5	106.8	▲ 0.3	110.6	2.3
8月	109.5	▲ 1.3	103.4	▲ 0.7	105.2	▲ 0.8	101.9	0.0	103.5	▲ 3.1	95.5	▲ 7.2
9月	106.2	▲ 3.0	111.5	▲ 1.0	104.5	▲ 0.7	108.0	0.8	103.6	0.1	110.0	0.4
10月	105.0	▲ 1.1	104.3	▲ 5.7	101.4	▲ 3.0	102.6	▲ 4.1	100.1	▲ 3.4	105.9	▲ 6.6
11月	95.3	▲ 9.2	90.4	▲ 19.4	92.9	▲ 8.4	91.2	▲ 16.7	93.1	▲ 7.0	94.4	▲ 16.5
12月	82.5	▲ 13.4	82.1	▲ 28.2	84.3	▲ 9.3	86.0	▲ 23.1	85.3	▲ 8.4	87.0	▲ 20.7
21年 1月	68.1	▲ 17.5	63.4	▲ 40.7	75.1	▲ 10.9	70.0	▲ 32.6	78.1	▲ 8.4	70.2	▲ 30.9
2月	69.9	2.6	65.1	▲ 42.2	75.6	0.7	69.6	▲ 36.0	71.4	▲ 8.6	67.0	▲ 38.6
3月	70.2	0.4	77.0	▲ 35.9	74.8	▲ 1.1	77.2	▲ 31.8	73.0	2.2	77.1	▲ 33.8
4月	69.3	▲ 1.3	66.2	▲ 40.3	76.4	2.1	72.0	▲ 31.0	76.3	4.5	71.9	▲ 31.0
5月	74.8	7.9	69.3	▲ 33.8	80.6	5.5	74.5	▲ 27.3	79.8	4.6	72.6	▲ 29.0
6月	76.5	2.3	79.7	▲ 30.0	80.8	0.2	81.9	▲ 23.8	81.0	1.5	84.2	▲ 22.5
7月	84.1	9.9	88.4	▲ 22.5	83.2	3.0	88.1	▲ 20.2	81.9	1.1	85.9	▲ 22.3
8月	82.8	▲ 1.5	80.0	▲ 22.6	84.2	1.2	83.4	▲ 18.2	83.1	1.5	78.0	▲ 18.3
9月	86.0	3.9	92.5	▲ 17.0	85.6	1.7	90.7	▲ 16.0	84.6	1.8	90.8	▲ 17.5
10月	87.3	1.5	87.9	▲ 15.7	86.7	1.3	89.9	▲ 12.4	85.9	1.5	90.7	▲ 14.4
11月	87.2	▲ 0.1	84.9	▲ 6.1	87.4	0.8	89.1	▲ 2.3	88.1	2.6	91.7	▲ 2.9
12月	87.9	0.8	88.4	7.7	87.9	0.6	90.6	5.3	90.4	2.6	92.6	6.4
22年 1月	92.1	4.8	84.5	33.3	92.8	5.6	86.3	23.3	93.5	3.4	83.0	18.2
2月	93.6	1.6	85.7	31.6	93.9	1.2	87.0	25.0	95.1	1.7	89.2	33.1
3月	93.9	0.3	102.0	32.5	95.0	1.2	99.3	28.6	95.2	0.1	102.1	32.4
4月	92.6	▲ 1.4	87.0	31.4	95.1	0.1	90.5	25.7	95.8	0.6	91.3	27.0
5月	93.0	0.4	85.9	24.0	95.3	0.2	89.9	20.7	95.7	▲ 0.1	87.6	20.7
6月	89.5	▲ 3.8	92.8	16.4	93.3	▲ 2.1	95.1	16.1	94.3	▲ 1.5	98.2	16.6
7月	89.1	▲ 0.4	94.0	6.3	93.0	▲ 0.3	98.4	11.7	94.6	0.3	98.4	14.6
8月	86.9	▲ 2.5	86.4	8.0	90.6	▲ 2.6	89.9	7.8	94.5	▲ 0.1	90.1	15.5
9月	86.1	▲ 0.9	95.6	3.4	90.1	▲ 0.6	95.7	5.5	93.7	▲ 0.8	101.8	12.1
10月	88.0	2.2	88.8	1.0	91.0	1.0	92.2	2.6	92.4	▲ 1.4	95.2	5.0
11月	91.8	4.3	91.4	7.7	93.3	2.5	94.6	6.2	93.9	1.6	98.1	7.0
12月	94.2	2.6	94.2	6.6	95.1	1.9	97.4	7.5	96.2	2.4	98.1	5.9

(平成17年平均=100)

年 月	広 島 県				中 国 地 方				全 国			
	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比	季節調整 済指数	前月(期) 比	原指数	前年(同 月期)比
平成 23年 1月	93.8	▲ 0.4	88.0	4.1	95.5	0.4	90.9	5.3	97.4	1.2	88.1	6.1
2月	97.1	3.5	89.3	4.2	97.2	1.8	90.4	3.9	98.5	1.1	93.2	4.5
3月	85.8	▲ 11.6	93.6	▲ 8.2	91.6	▲ 5.8	95.6	▲ 3.7	82.5	▲ 16.2	89.4	▲ 12.4
4月	87.6	2.1	80.3	▲ 7.7	90.3	▲ 1.4	85.1	▲ 6.0	84.5	2.4	79.7	▲ 12.7
5月	89.6	2.3	83.6	▲ 2.7	91.2	1.0	86.8	▲ 3.4	89.4	5.8	83.6	▲ 4.6
6月	94.1	5.0	97.4	5.0	92.7	1.6	95.0	▲ 0.1	92.8	3.8	97.6	▲ 0.6
7月	90.2	▲ 4.1	94.5	0.5	90.6	▲ 2.3	94.8	▲ 3.7	93.8	1.1	96.7	▲ 1.7
8月	90.5	0.3	90.6	4.9	91.8	1.3	91.6	1.9	94.6	0.9	91.5	1.6
9月	89.3	▲ 1.3	98.4	2.9	90.1	▲ 1.9	94.7	▲ 1.0	92.8	▲ 1.9	99.4	▲ 2.4
10月	89.8	0.6	90.3	1.7	89.6	▲ 0.6	90.2	▲ 2.2	94.5	1.8	96.1	0.9
11月	90.2	0.4	90.0	▲ 1.5	89.3	▲ 0.3	90.3	▲ 4.5	92.9	▲ 1.7	95.3	▲ 2.9
12月	90.4	0.2	90.0	▲ 4.5	89.4	0.1	91.1	▲ 6.5	95.0	2.3	95.2	▲ 3.0

出所：中国地方 … 「中国地域鉱工業生産動向」（経済産業省中国経済産業局）

全 国 … 「鉱工業生産・出荷・在庫指数」（経済産業省）